

伊集院 洸一様 御一家ファイナンシャルプラン 提案書

＜ダイジェスト版＞

ごあいさつ

拝啓

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さてこの度は、伊集院様のファイナンシャルプランのご相談を受け、心よりお礼申し上げます。

ご存じのように、昨今の銀行破綻や統合、各企業の統廃合、年金や雇用をはじめとする社会制度の変更など、金融経済を取り巻く環境は激変し、個人生活におきましてももはや無視できるどころか大きく関心を持っておかければ、自己防衛できない時代となってきました。

この提案書の中では、伊集院ご一家の家族構成、現在の収入支出・資産負債状況、各種加入保険につきまして、現状分析とそこからわかる問題点を御指摘した上で、対策およびその効果を記しております。特に住宅ローンと生命保険、また、もっともご関心があるのではと思いますが、老後資金につきましてそのアドバイスを記しております。これらは事前にお聞きしました伊集院様のご希望にできうる限り満足できるよう、提案書を作成したつもりでございます。

この提案書が、伊集院様御一家の充実した生涯生活設計に、多少なりとも役立つことを希望しております。

もし、ご質問やご希望などがございましたらいつでもご相談ください。

お礼かたがたご挨拶とさせていただきます。

敬具

平成 年 月

竹本隆之

目次

伊集院 冨一様 御一家ファイナンシャルプラン提案書	i
1. 伊集院 冨一様ご一家のプロフィール	1
2. プラン作成にあたっての冨一様のご希望・考え方	4
3. ライフイベント	5
5. キャッシュフロー上の問題	6
6. 問題解決提案	7
8. 対策後の効果	11
9. 老後資金と資産運用	12
10. さらなる提案	14
【付録】	15

本提案書<ダイジェスト版>には付録は添付しておりません。

1. 伊集院 洸一様 御一家のプロフィール

お伺いしたご家族のプロフィール（昨年度実数）は次のとおりです。ご確認ください。

（１）家族構成（ 年現在）

伊集院 洸一様	（昭和33年12月12日生まれ）	47歳	会社員（Y P社勤務）
雅美様	（昭和33年12月21日生まれ）	47歳	パートタイマー
亮太様	（昭和59年10月10日生まれ）	18歳	大学1年生
美佳様	（昭和62年5月5日生まれ）	15歳	高校1年生

（２）現在の収支状況

収入(実績値)

・洸一様	給与収入（額面金額）	<u>900万円/年</u>
・雅美様	パート収入（額面金額）	<u>60万円/年</u>

- 洸一様は、55歳までは物価上昇分程度の昇給があり、それ以降は減少するものとして、お伺いした会社数値より計算。
- 雅美様は、美佳様が大学を卒業する2010年まで働き、収入は変化しないものとする。

支出(実績値)

・基本生活費（家族4人）	<u>390万円/年</u>	（物価変動率1%を考慮）
・余暇生活費	<u>90万円/年</u>	（物価変動率1%を考慮）
・生命保険料	<u>75万円/年</u>	詳細は別途記載
・損害保険料	<u>10万円/年</u>	詳細は別途記載
・教育費	<u>（キャッシュフロー表に表示）</u>	（物価変動率3%を考慮）

（３）今後の収入および支出

今後の収入

・洸一様の退職一時金（額面）	<u>3,260万円</u>	
		➤ 洸一様は、1981年4月に現在の会社に入社し、将来2018年12月に定年退職となる予定。
・洸一様の公的年金	<u>154万円/年</u>	<u>63歳～64歳</u> （報酬比例部分）
	<u>229万円/年</u>	<u>65歳～終身</u> （老齢基礎年金+老齢厚生年金）
・雅美様の公的年金	<u>5万円/年</u>	<u>61歳～64歳</u> （報酬比例部分）
	<u>82万円/年</u>	<u>65歳～終身</u> （老齢基礎年金+老齢厚生年金）

今後の支出

・車両買換え費用（7年ごと）	<u>200万円</u>	（物価上昇率1%を考慮）
・車検費用（買換えの3年後・5年後）	<u>15万円</u>	（物価上昇率1%を考慮）
・結婚資金援助（1人あたり）	100万円	（物価変動は考慮しない）
・退職後の年1～2回の旅行費用	<u>80万円</u>	（物価変動は考慮しない）

(6) 保障状況

洸一様が被保険者である生命保険

・定期保険特約付終身保険（全期型）

契約者・被保険者 : 洸一様
 死亡保険金受取人 : 雅美様

	保険金額	毎月保険料	備考
終身保険	500万円	12,450円	41歳時加入
定期保険特約	4,500万円	30,150円	65歳まで
傷害特約	1,000万円	680円	65歳まで
入院保障特約	日額8,000円	3,880円	65歳まで、5日目から支給
合計		47,160円	月払（口座振替）65歳払込満了

雅美様が被保険者である生命保険

・定期保険特約付終身保険（全期型）

契約者 : 洸一様
 被保険者 : 雅美様
 死亡保険金受取人 : 洸一様

	保険金額	毎月保険料	備考
終身保険	200万円	4,420円	41歳時加入
定期保険特約	1,800万円	8,460円	65歳まで
入院保障特約	日額5,000円	2,425円	65歳まで、5日目から支給
合計		15,305円	月払（口座振替）65歳払込満了

・一時払養老保険

契約者 : 洸一様
 被保険者 : 雅美様
 死亡保険金受取人 : 洸一様

	保険金額	保険料	備考
養老保険	200万円	150万円	2004年10月満期、満期保険金はキャッシュフロー表の収入の「その他」欄に計上

契約している損害保険

保険種類	年間保険料	備考
自家用自動車総合保険	80,000円	SAP、20等級、全年齢担保
住宅総合保険	12,000円	地震保険は付帯なし
ゴルファー保険	8,000円	ゴルフ賠償責任、ゴルファー傷害、ゴルフ用品損害、ホールインワン費用を担保

2. プラン作成にあたっての洗一様のご希望・考え方

プラン作成にあたりお伺いした洗一様のご希望・考え方は以下のとおりです。ご確認ください。

(1) 子どもの費用

教育費については全額手当てしたい。必要があれば教育ローンを利用してもかまわない。
子どもがご結婚する際には、それぞれ100万円を援助したい。

(2) 老後

定年退職後は再就職等はせずに、夫婦共通の趣味であるゴルフや旅行をするなど、ゆとりのある生活を送りたい。

定年退職後も住宅ローンの返済が続くが、年金生活となっても返済を続けることは可能かどうか、あるいは何か対策があればアドバイスが欲しい。

子どもが独立する時期も近づいてきたので、老後資金準備を考えたい。老後資金準備についてアドバイスが欲しい。

(3) 保障

自分に万一のことが起きても、遺された家族がその後の生活に困るようなことは避けたい。少なくとも子どもが大学を卒業するまでの費用と、その後の雅美様の生活費については、全額確保しておきたい。

現在の保険料の負担は重いと感じているが、必要な保障を確保するためであればやむをえないと考えている。現在加入している保険が適切かどうか、アドバイスが欲しい。

(4) 資産運用

現在、金融資産の大部分を預金で運用しているが、年齢や家族構成、資産保有状況等、自分のおかれている状況から判断して適当なのか、アドバイスが欲しい。

為替リスクの怖さは十分に認識しているが、外貨建て商品はポートフォリオに組み入れたほうがよいと考えている。しかし、株式等については保有すべきかどうかよくわからない。

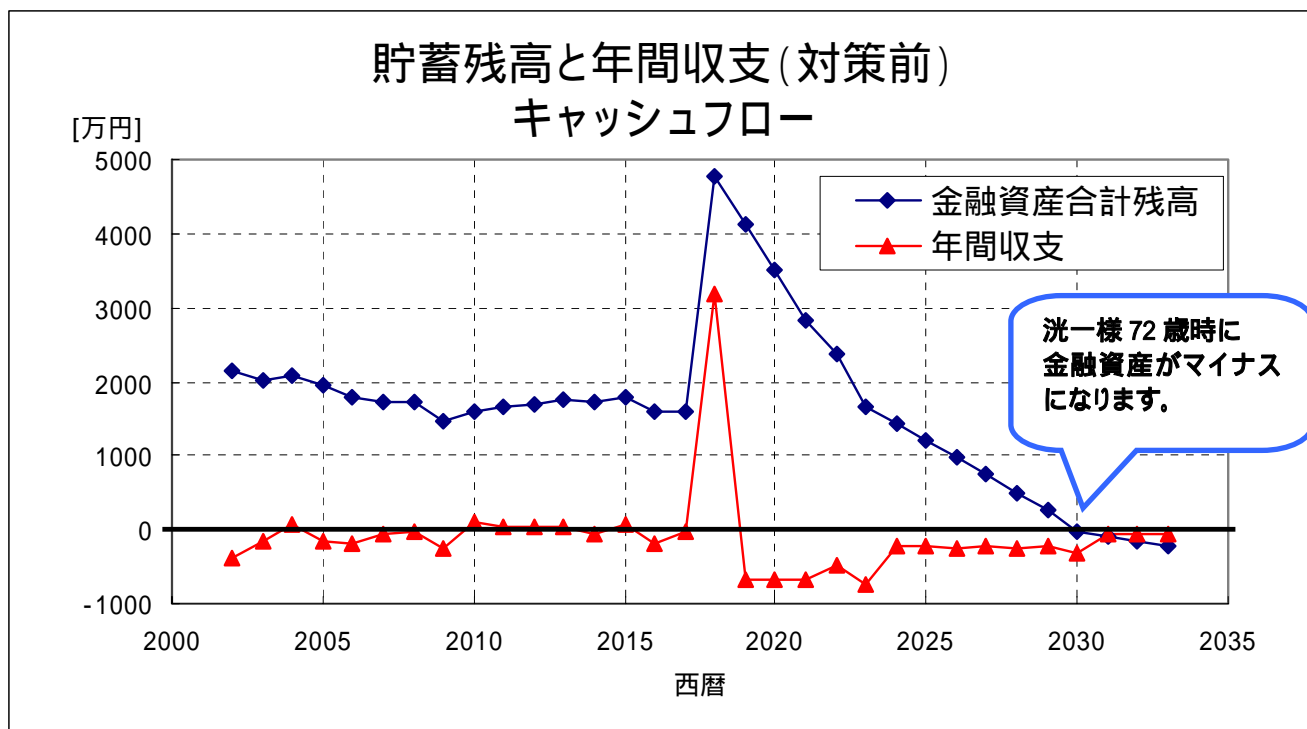
ゴルフ会員権は相続時の評価額から比べると3分の1以下に値下がりしてしまったので、資産としては考えないようにしている。このゴルフ場は気に入っているため、今後も利用していきたい。

3. ライフイベント

年齢は年末時点で記載

	冨一様	雅美様	亮太様	美佳様		
2003	45歳	45歳	19歳	16歳		
2004	46	46	20	17	高校	
2005	47	47	21	18	大学	
2006	48	48	22	19		美佳様高校ご卒業
2007	49	49	23	20		亮太様大学ご卒業
2008	50	50	24	21	大学	
2009	51	51	25	22		自動車購入
2010	52	52	26	23		美佳様大学ご卒業
2011	53	53	27	24		
2012	54	54	28	25		
2013	55	55	29	26		
2014	56	56	30	27		亮太様ご結婚(仮定)
2015	57	57	31	28		
2016	58	58	32	29		自動車購入
2017	59	59	33	30		美佳様ご結婚(仮定)
2018	60	御退職	34	31		冨一様御退職
2019	61	61	35	32		
2020	62	再就職せず に余暇を楽しむ	36	33		
2021	63	63	37	34		
2022	64	64	38	35		
2023	65	65	39	36		自動車購入
2024	66	66	40	37		
2025	67	67	41	38		
2026	68	68	42	39		
2027	69	69	43	40		
2028	70	70	44	41		住宅ローン返済終了
2029	71	71	45	42		
2030	72	72	46	43		自動車購入
2031	73	73	47	44		
2032	74	74	48	45		
2033	75	75	49	46		

5. キャッシュフロー上の問題



(1) 貯蓄残高(金融資産)の減少推移について

現時点では金融資産(貯蓄残高および投資信託などの投資性金融商品)が2000万円を超え、また、将来得られる退職金も3000万円以上を見込んでおります。しかしながら、キャッシュフロー上、退職後は年々これらの残高は減少し、2030年以降(冨一様72歳以降)は、金融資産はマイナスとなっております。

冨一様75歳時点では金融資産合計で、マイナス213万円となっております。

対策を検討する前に、大きなポイントが2点ございますのでご確認ください。

現在の住宅ローンの総返済額(借入金額は3360万円に対して)

住宅ローン 年間181万円 × 30年 = 5430万円

つまり、支払う利子が相当にございます。

61 歳から 65 歳までの収入（年金額）

洸一様・雅美様が 61 歳から 65 歳までの収入について、下記に示します。この表でお分かりだと思いますが、この 5 年間は基本的に貯蓄を大幅に取り崩す生活となります。（老後資金については対策のところでご提案いたします。）

西暦	2019	2020	2021	2022	2023	2024
洸一様、雅美様	61 歳	62 歳	63 歳	64 歳	65 歳	66 歳
洸一様の老齢年金				186	188	282
雅美様の老齢年金		6	6	6	6	101
収入計（万円）	0	6	6	192	194	383

（２）生命保険と医療について、保障の見直しが必要と思われます。具体的には

洸一様の生命保険（定期特約）を 65 歳まで続けるのは保障が多すぎますので、お子様ご卒業時または独立時に見直す。

雅美様の生命保険（定期特約）をやめるまたは減額する。

医療保障が 65 歳までなのでこれを充実させるために、終身型タイプの医療保険も検討する。

これらについて後ほどご説明いたします。

6. 問題解決提案

（１）住宅ローンの繰り上げ返済

繰り上げ返済は、早い時期にすればするほど効果があります。ライフイベントとしてはお子様の教育資金の手当てがありますが、現時点で貯蓄 1680 万円 + 投資性金融商品 480 万円 = 2160 万円の金融資産がありますので、美佳様の卒業後といわず、すぐにでも繰り上げ返済されることを強くお勧めします。具体的には、

貯蓄預金の 860 万円を繰り上げ返済に充てるということをご提案します。ここ数年の貯蓄預金の金利は相当小さく、お持ちの預金金利はおよそ 0.01%かと思います。これは 860 万円を 1 年預けても 860 円にしかなりません。（しかも利子には 2 割の税金がかかるので手にできるのは 688 円です）

一方、現在の住宅ローンの金利は 3.5%なので、この貯蓄預金をそのまま繰り上げ返済

に充て、金利差をそのままメリットとして享受することをご提案いたします。2004年12月に繰り上げ返済を実行したとすると、約870万円の利息分を支払わなくて済むこととなります。

また、定年後は貯蓄と年金収入による生活となります。上記繰り上げ返済後は残債が減っておりますので効果は数万円しかございませんが、それでも余分な利息を支払ってローンを続ける理由はまったく見当たりません。退職金を得た段階ですぐに残りの住宅ローン約220万円を一括返済してください。キャッシュフローでは退職された翌年に一括返済されたとして、計算しております。

(2) 教育費用

美佳様の将来については現時点では伊集院様自身不確定な部分が多いと思いますので適宜このキャッシュフローについて見直していただければよろしいかと思います。おおざっぱに言うと、教育費が増える分だけ貯蓄が減る・生活費を圧迫するということになるかと思えます。

参考までに、大学の教育費用についてお示します。国民生活金融公庫の調査によりますと、

自宅外通学者の仕送り額(平成15年度)は平均138万円
1年間の在学費用は、国公立92万円、私立144万円

また、

私立大推薦入学の入学費用(平成14年度)は、
私立短大92万円、理系私立大107万円、文系私立大103万円

となっております。

(3) お子様の結婚時の援助

ご希望通り、亮太様・美佳様それぞれ30歳時に100万円の支出を見込んで計算しております。

(4) 老後の生活

再就職しない前提で、かつ、余暇費用50~60万円とそれとは別に旅行費用80万円/年を見込んで計算しております。

(5) 保障

洸一様の保障：住宅ローンには団体信用生命保険がつけられていますので、万一の時も住宅ローンについては保障されています。それ以外のいわゆる遺族の生活費をどれだけ保障するかがポイントとなります。

洸一様の定期保険特約4500万円の保障を65歳まで続けるのはやや多いように思います。教育費がまだどの程度必要か具体的ではありませんので、お子様のご卒業または独立された時点で、この定期保険特約分の保障減額をお勧めします。美佳様ご卒業時後、雅美様52歳から75歳までに必要な費用をキャッシュフローに示した額の1/2として計算しますと、

余暇生活費	1767万	} × $\frac{1}{2}$	=	4990万円
車両関連	868万			
生活費	7345万			
結婚資金援助	200万			
			=	200万円

合計 約5200万円()

が必要となります。一方、これに対して雅美様が受ける遺族年金等の公的年金は、

65歳まで（遺族厚生年金＋中高年加算）		
	120万×14年間	= 1680万
65歳以降（遺族厚生年金＋老齢基礎年金）		
	134万×10年間	= 1340万
	合計	約3000万円（ ）

すなわち、 と の差額 2200万円が75歳までで最低限必要な保障額となります。現在の女性の平均余命は80歳を超えていますので、こういった余裕分として+1000万円を見込んで必要保障額は3200万円程度となります。

このように、ご要望通り「雅美様が生活に苦勞することのない十分な額」を見込んだつもりですがそれでも現在の定期保険特約（4500万円）を約3割を減らすことが可能で、現在の保険料30150円の3割、約9000円、年間にして約11万円節約できます。

なお、この、万が一の時の保障については、伊集院様ご一家のお考えがあると思いますし、際だって多すぎるという額ではありませんので、節約効果についてのみお知らせし、後ほど記します「対策後のキャッシュフロー」には反映させておりません。今後よくご検討ください。

万が一の場合の相続税のことについてですが、団体信用生命保険付きローンは債務控除できません。相続税の基礎控除額は5000万+1000万×相続人数（3人）=8000万円ですので冨一様の生命保険金受け取り時にはご注意ください。ただ、生命保険金控除（500万×人数）や配偶者控除の手続き（1億6000万円までは申告すれば控除される手続き）などがございます。詳しくは税理士など専門家にご相談なさってください。

雅美様の保障：冨一様は収入がございましたので、定期保険特約1800万円は必要ないのではないのでしょうか、特約をはずす、あるいは減額するということをご検討ください。この雅美様の定期保険特約分は、8460円×12ヶ月=約10万円/年に相当します。

終身保険の200万円は多いとは言えませんが、この終身保険部分はいわゆる葬式代に相当するかと思います。あえて医療保障のみにして、割安の保険料とし、この死亡保障部分は別に貯蓄すると言う考え方（保障と貯蓄は分けるという考え方）もあります。

もし特約のみははずすことができない場合は、解約して別途入り直すと言うことをお勧めします。いわゆる掛け捨てタイプの保険で「入院保障日額5000円で月々の掛け金2000円、かつ割り戻しがある」というような保険が各種共済から出ておりますので是非ご検討ください。

また、冨一様、雅美様ともに、入院保障は65歳までです。この年齢以降の入院については貯蓄から手当てするということとなります。保険料は高くなりますが終身タイプや80歳まで更新可能な保険というものも存在しますので、一度ご検討ください。ただ、終身型、更新型いずれの場合もトータルの支払い総額は相当な額になりますし、保険の種類によっては特定の疾患しか保障されないものもありますので、その分を貯蓄しておくというのもひとつの考え方（保障と貯蓄は分けるという考え方）です。お勧めするというわけではありません。65歳以降の保障をどうするか、よくご検討なさってください。

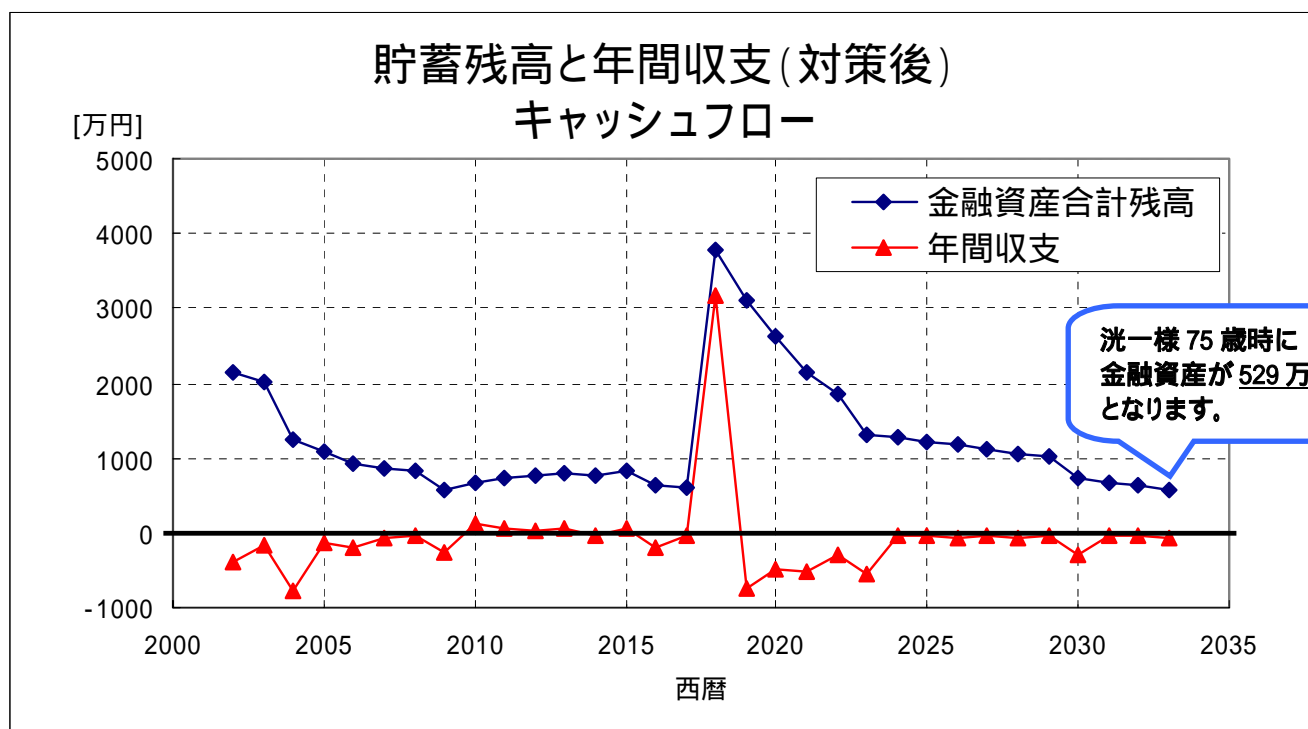
損害保険（自動車、住宅）

特に大きな問題はありません。あえて言うと、自動車の運転者が限定されるのであれば、運転者限定の特約（家族限定や年齢限定）もあり、保険料は安くなります。最近では、走行距離や使用目的に応じた割引をしている保険会社もあり、さらには各社一括見積もりをするサービスもあって簡単に見積もりを取ることが可能ですので、一度利用されてもいいでしょう。（ただしすでに 20 等級とかなり割安な保険料となっていますので大きな効果は期待できないかもしれません。）

地震保険については、最近では地震だけではなく風水害も保障する自然災害特約として扱われてきておりますので、検討されてもよいと思います。ただ、この特約は現状の保険料よりもかなり割高となります。

また、住宅に関する保障は契約保険金そのまま支払われるのではなく、時価や損害割合によって減額されて支払われます。それを補うためには再調達価額特約（同等のものを建築・購入する金額を保障）をつけるということも一度考えられてもいいでしょう。ただこの場合も保険料はかなり割高になります。

8. 対策後の効果



(ア) 繰り上げ返済の実行

貯蓄預金をもとに 860 万円を 2004 年 12 月に繰り上げ返済すること、および、2019 年 3 月に退職金を原資にして残りの住宅ローン 221 万円を一括返済し完済することをお勧めします。

これらの繰り上げ返済により、**2033 年 (洸一様 75 歳) 時点において、対策前にはマイナスであった金融資産残高は 529 万円**となります。

(イ) 保障：洸一様の生命保険をお子様ご卒業時に見直すことと、雅美様の生命保険の見直しすることにより、負担を軽減することが可能です。

しかし同時に、終身型の医療保険への提案や住宅について損害保険の見直し (負担増) も提案させて頂きました。そのため、上記キャッシュフローには反映させておりません。ただ、

洸一様の定期保険特約の 3 割減額で年間約 11 万円
雅美様の定期保険解約で 年間約 10 万円

を節約できますので、是非ともご検討ください。

(ウ) 老後資金については次ページ以降に記しております。上の対策後キャッシュフローのグラフには反映させておりませんが、十分に運用することが可能です。

9. 老後資金と資産運用

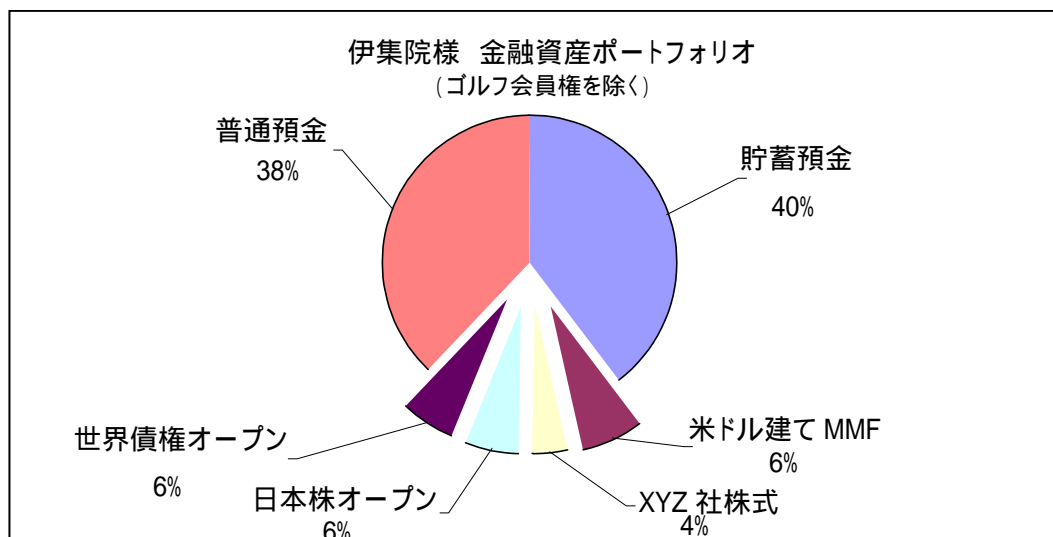
【はじめに】

基本的に老後は「年金」と「貯蓄」を取り崩す生活とならざるを得ません。そのためには老後資金を貯めておく、あるいは、積極的に殖やすということを考える必要があります。

貯蓄や投資性金融商品を考える際には、安全性、流動性（換金性）収益性の3つがポイントとなり、いずれも重要なポイントとなります。 ~ すべてを満足するものはありません。 資産運用というのはこのうち、の収益性重視として考えることができます。

すぐに換金できる流動性預金（通常は普通預金・郵便貯金）は生活費の半年分くらいあればよいので、残りの部分で資産運用することをお勧めします。ただ一口に資産運用といいますが、ハイリスク・ハイリターンのもから、その逆のものもあります。リターンを求める限りリスクもあるという点を踏まえた上で、「いくら額を（例えば50万とか200万とか）」、「どのくらいの期間（2年とか5年とか）」で運用し「許容できるリスクはどれくらいか」といったことを明確にした上で資産運用をお考えください。

伊集院様の場合、ご相談にありますように、現時点においては普通預金と貯蓄預金に大半の資金が集中しています。下図にこれをポートフォリオの図で示します。



先ほどの対策提案の中では、貯蓄預金を住宅ローンの返済に充てることをご提案させていただきました。伊集院様御一家の場合、当面は教育資金の手当が最重要でありますので、投資性資産の割合を現有のもの以上に増やすことはさけた方がいいでしょう。それまでは安全性重視でお考えください。本格的な投資運用をお考えになるタイミングは、お子様のご卒業時された時期が独立された時期、それと、退職金を得られ住宅ローンを完済された時期です。

まとまった余裕資金ができた段階で、例えばこれは 年後の車購入資金に充てる、これは 年後にくるであろう の費用に充てる、あるいは、これは最低10年間は運用可能な余裕資金である、などにわけ、安全性、換金性、収益性のバランスを取りながらそれぞれについて、運用されるとよいと思います。リスク分散の意味でもいくつかの金融商品に分けて運用されることをお勧めします。

なお、住宅ローンの繰り上げ返済はある意味、ノーリスクでリターン（収益）が得られるというように考えることもできます。

【投資の効用】

当面使う予定のない資金であれば、このまま積極的に資産運用されても良いと思います。単純に計算して、利回り2%で20年運用できれば(1.02の20乗)=1.48倍、もし利回り3%なら(1.03の20乗)=1.8倍になります。

例えば現在お持ちの480万の資産を2%で30年運用できれば(1.02の30乗)=1.8倍で870万円、3%なら1165万円となりますのでかなり余裕のある生活ができると思います。(ただし、同時に物価もインフレ率 年1%(仮定)で上昇しているということも考慮してください)

リスク・リターンのある金融商品は値動きがある以上、短期的には元本割れの場合がありますが、20年~30年での長期スパンで考えると、2-3%での運用は十分可能であります。

【現有の金融商品とアドバイス】

現時点での**MMFの利回り**は、日本円のMMF 0.02%に対し、

米ドル建てMMFで 0.8%程度、

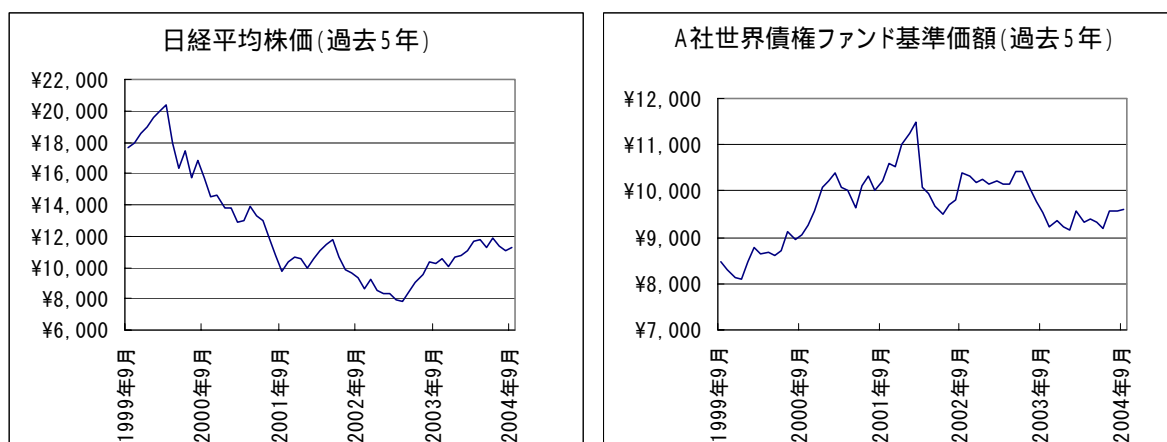
オーストラリアやニュージーランドドル建てのMMFで 3~4%、

ユーロ建てのMMFで1%強

の利回りとなっています。利回りの点では、外貨建て商品は非常に魅力的です。為替リスクや手数料を考慮された上でお考えください。

また、MMFは換金性(流動性)と安全性(通貨ベースでの安全性)は良いのですが、収益性にはやや劣ります。当面使う予定のない資金であれば、すでにお持ちの「世界債券オープン」のような投資信託(ファンド)で運用し、収益を期待するという方法も良いかと思えます。証券会社や銀行(特に都市銀行)では米国・欧州・オセアニア・中国など各市場向けの株式や債権を組み入れた投資信託、グローバル型と言って世界各国を取り込んだ投資信託もございます。

下図に過去5年間の日経平均株価とある大手証券会社で扱っている米国債権中心の世界債券ファンドの基準価額を示します。



伊集院様がお持ちの日本株式オープンと世界債券オープンについてもこの図と同様の値動きをしていると推察します。グラフにあるようにこれらは、お互い片方が上がれば片方が下がるという相反する傾向があります。今後もこのように値動きするかどうかはわかりませんが、リスク分散するためにもいくつかの金融商品で運用し、また、一度購入したらそのまま放っておくのではなく、成長が期待できるものに比重を移す、あるいは、期待が持てないのなら手放して別のものに投資するというような運用を心がけると良いと思います。少なくとも投資後(購入後)は、半年に一度程度はチェックするようにしてください。

また、月々1万円からできる積立型ファンドもございますので、最初はこのようなものから始めてみるのも良いでしょう。

【個人で用意する年金】

変額年金保険という、投資性年金というものがございいます。これは一時払い保険金（例えば 200 万円）を投資信託ファンドとして運用し、将来年金原資として受け取るというもので、これに加えて、死亡保障も付加されているという金融商品です。この保険は運用期間中、様々なタイプのファンドに変更できますのである時期は外国の株式を中心に、またある時期は債券を中心に、などの運用が可能です。長期的に見て運用成績しだいではかなりの収益をあげることが期待できますのでご検討ください。

もし、ハイリスクを取りたくないというのなら、**個人年金保険**がお勧めです。一時払い型・毎月の積立型の両方がありますので、定期預金で積み立てるよりは利回りが良いので貯蓄の一部をこのような商品に充てるというのも良いかと思えます。生命保険を見直して節約できた分をこういったものに充てるというのはどうでしょうか。

変額年金保険・個人年金保険は保険会社および一部の証券会社や都市銀行で取り扱っております。

【その他】

お持ちの株式についてですが、XYZ社株式は購入時の価格をかなり下回っております。今後もハイリスク・ハイリターンを求めるのか、あるいは安定運用にするのか（株主総会への出席が目的でないなら）将来性・成長性のあるなしで判断されれば良いかと思えます。

ゴルフ会員権は気に入って利用されておられ、資産としてもお考えではないということなので特にご提案はいたしません。十分ご活用くださるのがよろしいと思えます。

10. さらなる提案

(1) 住宅ローン金利

金利は上昇傾向にあります。急激に上昇するという事はないと思えますが、その動向にはご注意くださいようお願いいたします。この点からも、なるべく早い時期の繰り上げ返済をお勧めいたします。

(2) 保険の変更時の注意

保険の見直しをいくつかご提案いたしました。もし、保険を新たな契約に変更する際には、保障が途切れないようにご注意ください。「医師の審査で通らない・時間がかかる」をはじめ、「申し込み後2ヶ月しないと保障が始まらない」「初回保険料の引き落とし以降に保障が始まる」など保険により様々なタイプのものがございいます。解約は簡単にできるが、申し込んでもすぐに保障は始まらないということ念頭においてお手続きくださるようお願いいたします。

(3) 普通預金について

現在、ABC銀行を主要銀行としてお取引されているようですが、金融破たんや合併が珍しくない時代となってきていますので、もう1つか2つの銀行や郵便局に分散されることをお勧めします。最近ペイオフという言葉がよく報道されていますが、預金保険機構の対象のものは、合算して1000万円とその利息が保護されます。伊集院様の場合、住宅ローンがございいますので、これとの相殺という手続きも可能なので、預金は全額保護されることとして考えていいかと思えます。しかし、万が一の場合は手続きに時間がかかったり、一時口座が凍結される可能性も否定できません。精神衛生上も良くないと思えますので、ABC銀行以外の他の銀行・信用金庫・郵便局などに分散しておいたほうが良いと思えます。

(【付録】は本提案書<ダイジェスト版>には未添付です。)

おわりに

今回、伊集院様の今後のライフプランを十分満足できるように、提案書を作成いたしました。この提案書の中でいくつかご指摘させていただいた点について御検討・御実行くださり、少しでも伊集院様の充実した生涯生活設計に役立つことを希望しております。

税制・保険・年金制度等の法令は毎年のように変更されております。そのため定期的なプランの見直しが必要となつてまいりますので、特に保険や投資などに関しましては、適宜保険や証券の専門家のアドバイスを受けた上で実行されることをお勧めします。

なお、不明な点・不備な点などがございましたら、何なりとご相談下さいますようお願いすると同時に、今後とも変わらぬご支援ご愛顧を賜りますようお願いいたします。

Livelihood Planning

〒616-8106

京都市右京区太秦森ヶ西町 18-2-406

竹本 隆之

E-mail : takemoto@livelihood.jp